

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地			
国際航空専門学校	昭和55年3月28日	大森 章生	〒359-1131 埼玉県所沢市久米354 (電話) 04-2923-1318			
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地			
学校法人浅野学園	昭和56年3月25日	中井 真一郎	〒359-1131 埼玉県所沢市久米354 (電話) 04-2923-1318			
分野	認定課程名	認定学科名	専任士	高度専任士		
工業	専門課程	エアロサポート科	平成19年文部科学省 告示第21号	-		
学科の目的	学校教育法の規定に基づく専門課程を置く専修学校として、航空機の地上取扱に関する専門技術を教授するとともに、社会人として必要な教養を与え、もって優れた航空技術者を養成することを目的とする。					
認定年月日	平成28年2月19日					
修業年限	昼夜	本課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験
2年	昼間	2,832	1,532			1,300
生徒総定員	生徒定員	留学生数(生徒定員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160人	43人	0人	5人	1人	32人	
学期制度	■1学期:4月10日～7月24日 ■2学期:8月21日～12月22日 ■3学期:1月11日～2月19日			成績評価		
長期休み	■学年始:4月1日～4月9日 ■夏 季:7月26日～8月20日 ■冬 季:12月23日～1月10日 ■学年末:3月20日～3月31日			卒業・進級条件		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任個別相談、カウンセリング、電話連絡、家庭訪問等			課外活動		
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和4年度卒業生) グランドハンドリング業務、航空機燃料給油、空港保安業務 ■就職指導内容 就職ガイダンス、企業説明会、各種就職試験試験対策(履歴書・エントリーシート・筆記試験・適性試験・面接試験指導等) ■卒業生数 21 人 ■就職希望者数 21 人 ■就職者数 20 人 ■就職率 : 95 % ■卒業生に占める就職者の割合 : 95 % ■その他 ・進学者数: 1人			■課外活動の種類 ボランティア(市民祭応援、ロードサポート、献血)、 体育祭実行委員会等 ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和4年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報)		
	(令和 4 年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報)			■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等		
中途退学の現状	■中途退学者 0名 ■中退率 0% 令和4年4月1日時点において、在学者37名(令和4年4月1日入学者を含む) 令和5年3月31日時点において、在学者37名(令和5年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路の方向転換 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任教官、教務部長、校長との面談実施、保護者との連携、カウンセリング等					
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度:㊦・無 ※有の場合、制度内容を記入 特待生制度(各学年1学期の成績及び学習態度等優秀者に学費の一部を免除)、昼食代補助 ■専門実践教育訓練給付:給付対象・氷河期世代 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載					
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:有・㊦ ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)					
当該学科のホームページURL	https://www.asano-kac.ac.jp/departments/support/					

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業生に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者から除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業生に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業生に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

航空業界におけるグランドハンドリング業務は、乗員や整備士に比べると地味な部門ではあるが航空機を運航するうえで必要不可欠からざるスキルである。大型機の牽引や貨物の取扱、それに伴う航空機の操作など、日々進化する業務内容について常に企業と連携・情報交換を行い専門家の育成を推進する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

本委員会を通し、学校が主体的かつ統括的に、航空業界(エアライングループ)の意見や要請を把握、分析し提起された問題点の中から改善が必要と判断される項目は本校教育規定11-(1)に基づき教務部長経由エアロサポート科教育課程編成に反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
吉田 保夫	公益社団法人日本航空技術協会 事務局長	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	①
並木 康紀	株式会社JALエンジニアリング 人財開発部 整備訓練グループ グループ長	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	③
町田 政浩	全日本空輸株式会社 整備センター教育訓練部マネジャー	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	③
森田 力	株式会社JALグランドサービス 教育センター 教育グループ課長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	③
竹田 啓一	ANAエアポートサービス株式会社 ランプサービス部 人材開発マネジャー	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	③
根岸 敬浩	朝日航洋株式会社 川越メンテナンスセンター センター長 兼 整備部長、施設機材部長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	③
大森 章生	国際航空専門学校 校長	-	
山田 知良	国際航空専門学校 副校長	-	
増子 和久	国際航空専門学校 管理本部長 兼 エアロサポート科学科長	-	
有海 和寿	国際航空専門学校 教務部長	-	
大野 恵	国際航空専門学校 管理本部 就職指導課 次長	-	
石川 麻里子	国際航空専門学校 管理本部 業務部 広報課 次長	-	
高須 清美	国際航空専門学校 管理本部 就職指導部 就職指導課	-	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)
年2回 (5月、2月)

(開催日時(実績))
第1回 令和4年5月10日 15:00～17:00
第2回 令和5年2月14日 15:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

現在進行中の改善状況
①教育内容の充実。
②教育内容の標準化。教材の更新、IT化。
③学生募集の強化。
④安全教育の実施と内容の検討。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

エアライングループのグランドハンドリング(地上支援業務)を実施している企業の就業体験を通して、学校で学んだ航空関連の基本知識について実際に業務を行うことで確認し、専門知識の向上を図るとともに学生の進路選定一助とする。
当該研修を実施することにより専門学校として航空業界の貨物取扱業務、航空機牽引誘導業務、航空手荷物取扱業務等の専門家育成に貢献する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

エアロサポート科においては、1年次にエアライングループのグランドハンドリング会社に出向き、航空機への貨物・手荷物の搭載、取り出し業務、客室クリーニング業務等の実務研修を実施している。また、学校および研修先企業において、業務に必要な安全教育、コンプライアンス教育等の座学教育について実施している。(インターンシップ期間中の評価表添付)

①研修時期・期間 毎年11月、2～3週間

②研修先企業 (株)JALグランドサービス東京 羽田支店、成田支店 ANAエアポートサービス(株)

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
・地上サービス実習	・成田空港、羽田空港にて約一カ月企業研修を行う	株式会社JALグランドサービス ANAエアポートサービス株式会社
・特殊車両(3)支援作業実習	・搭載、誘導、客室、機用品、機体、旅客の各支援作業を実習にて習得	株式会社JALグランドサービス ANAエアポートサービス株式会社

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

- ・教員は担当科目について、常に知見の向上に努めると同時に、学生の理解度を深めるために最新の情報等の取得に努める。
- ・教員は関連企業(航空関連)等への見学の機会を積極的に持ち知見向上に努める。また、学校は教員の知見向上のための時間、費用等を保証する。
- ・教員全員を対象に定期的に教育を実施する。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「グラハンコンテスト検討会」(連携企業等:日本航空技術協会、(株)JALグランドサービス、ANAエアポートサービス(株))
期間:令和4年4月22日(金) 対象:グランドハンドリング業務担当教官
内容:空港にて業務を行うグランドハンドリング会社を見学し、授業内容の充実に役立てる。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:「職業教育・キャリア教育財団主催 教員研修」(連携企業等:埼玉県専修学校各種学校協会)
期 間:6月・7月
対 象:教務部教官
内 容:教務部の教官を計画的(6月～7月、毎年5名程度)に、埼玉県専修学校各種学教員研修(1年次:高等課程、2年次:専門課程)に派遣し、指導力向上を図り、教員認定を受ける。テーマを決め、教員自身の知識、知見向上のための教育を実施。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「教官の技量維持向上訓練」(連携企業等:日本航空技術協会)
期間:8月末他 対象:全教員
内容:品質・安全管理について

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:「職業教育・キャリア教育財団主催 教員研修」(連携企業等:埼玉県専修学校各種学校協会等)

期 間:7月末

対 象:教務部教官

内 容:埼玉県専修学校教育振興会主催 教員研修計画。教育規程に基づく定期教育 6時間(毎年一学期末に計画)

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

- 1.学校の教育理念、目標、計画に沿った取り組みの達成状況、学校運営等への取り組みが適切に行われたかについて自己評価を行い、学校運営等の課題について、継続的に改善を図るとともに、評価結果を公表する。
- 2.自己評価結果の客観性・透明性を高めるとともに、設置学科に関連する企業・団体・学校関係者との理解促進を図り、継続した連携協力体制を確保するため、業界関係者、学校関係者から規程に基づき選任した委員による「学校関係者評価委員会」を設置し、学校関係者評価を実施する。
当該委員会の委員の助言、意見などの評価結果を学校運営等の改善に活用する。評価結果と改善への取り組みをホームページに掲載し広く社会に公表する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか) ・学校における職業教育の特色は何か ・社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想等が生徒・学生・関係業界・保護者等に周知がなされているか ・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか等
(2)学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか ・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・人事、給与に関する規定等は整備されているか ・教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか等

(3)教育活動	<p>(目標の設定等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科としての就業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか <p>(教育方法・評価等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発等が実施されているか ・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等の連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか <p>(資格試験)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか <p>(教職員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務を含め)の提携先を確保する等マネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成等資質向上のための取り組みが行われているか ・職員の能力開発のための研修等が行われているか等
(4)学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか等
(5)学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・社会人ニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか ・関連分野における業界等との連携による卒後の再教育プログラム等を行っているか等
(6)教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか等
(7)学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取り組みを行っているか ・学生募集活動は、適正に行われているか ・学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか ・学生納付金は妥当なものとなっているか等
(8)財務	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか等

(9)法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ・自己評価結果を公開しているか等
(10)社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか等
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

現在進行中の改善状況

- ①オンライン教育について
- ②教育コンテンツの共有化
- ③学生募集活動における工場見学等の企業協力要請。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
山下 奉利	学校法人 浅野学園 元校長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	関係施設 役員
吉田 保夫	公益社団法人 日本航空技術協会 事務局長	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	業界団体
百田 寛	株式会社JALエンジニアリング 総務部組織 人財グループ グループ長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	業界企業
小池 隆	全日本空輸株式会社 整備センター業務推進部 総務チームマネジャー	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	業界企業
足立 知	株式会社JALグランドサービス 総務部 人事採用グループ グループ長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	業界企業
関 理恵	ANAエアポートサービス株式会社 人事部人事課マネジャー	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	業界企業
吉田 淳一	朝日航洋株式会社 航空事業本部 執行職	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	業界企業
山崎 一慶	多摩川エアロシステムズ株式会社 整備部 部長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	業界企業

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.asano-kac.ac.jp>

公表時期: 令和4年9月14日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

国際航空専門学校は、学校教育法に基づき、生徒、保護者、業界関係者など当該専修学校に関する関係者の理解を深め、これらの者と連携・協力するとともに、同法その他関係法令で定められた目的を実現するための公的な教育機関として、教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を積極的に提供する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか) ・学校における職業教育の特色は何か ・社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想等が生徒・学生・関係業界・保護者等に周知がなされているか ・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか等

(2)各学科等の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・入学者に関する受け入れ方針及び入学者数、収容定員、在学学生数 ・カリキュラム(科目配当表(科目編成・授業時数)、時間割、使用する教材等授業方法及び内容、年間の授業計画) ・進級・卒業の要件等(成績評価基準、卒業・修了の認定基準等) ・学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定等 ・資格取得、検定試験合格等の実績 ・卒業者数、卒業後の進路(進学者数・主な進学先、就職者数・主な就職先)
(3)教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員数(職名別) ・教職員の組織、教員の専門性
(4)キャリア教育・実践的職業教育	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育への取組状況 ・実習・実技等の取組状況 ・就職支援等への取組支援
(5)様々な教育活動・教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事への取組状況 ・課外活動(部活動、サークル活動、ボランティア活動等)
(6)学生の生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学生支援への取組状況
(7)学生納付金・修学支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学生納付金の取り扱い(金額、納入時期等) ・活用できる経済的支援措置の内容等(奨学金、授業料減免等の案内等)
(8)学校の財務	<ul style="list-style-type: none"> ・事業報告書、貸借対照表、収支計算書、監査報告書
(9)学校評価	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価・学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・該当せず
(11)その他	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の社会貢献意識向上

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他

<http://www.asano-kac.ac.jp>

授業科目等の概要

(工業専門課程 エアロサポート科)														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 時 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			航空概論 (1) 航空概論	航空全般の基本知識。特に地上支援業務に必要な知識を習得する。	1・2 学年	100	○			○			○	
○			航空概論 (2) 航空工学	航空機の構造、発動機、空を飛ぶ原理など。	1・2 学年	140	○			○				○
○			航空概論 (3) 法規 (電波・航空)	航空法概要。航空機の安全性、環境対策等。	1 学年	30	○			○				○
○			機械工学 (1) 機械基礎	機械工学の基礎を学ぶ。	2 学年	40	○			○				○
○			機械工学 (2) 自動車工学	空港内で使用する特殊車両の学習。エンジン、燃料装置、電気装置など。	2 学年	40	○			○				○
○			航空支援業務 (1) 空港概論	空港機能と地上支援業務の概要を学ぶ。	1 学年	80	○			○				○
○			航空支援業務 (2) 航空貨物輸送	航空貨物輸送の学習を通じ、航空機の運航のアウトラインを理解する。	1・2 学年	120	○			○				○
○			航空支援業務 (3) 空港地上サービス	航空輸送の特性と、旅客運送サービス客室サービス、マーシャリングについて学ぶ。	1・2 学年	120	○			○				○
○			航空支援業務 (4) 特殊車両	TT車、フォークリフト、ハイリフト車などの構造、用途などを理解する。	1 学年	20	○			○				○
○			航空支援業務 (5) 安全衛生	安全意識、事故防止、救急処置等についての一般知識習得。	1 学年	20	○			○				○
○			一般教科 (1) 英語	基本航空英語の学習。	1・2 学年	180	○			○				○

授業科目等の概要

(工業専門課程 エアロサポート科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			一般教科 (2) 品質管理	品質管理の基礎、航空機整備の品質管理。	2 学 年	20		○			○		○		
○			一般教科 (3) 一般教養	変化に対応出来る、合理的考え方とバランス感覚に優れた人材養成。	1・ 2 学 年	160		○			○		○		
○			一般教科 (4) 英検・TOEIC指導	AVIATION ENGLISHの学習により TOEIC SCORE UP	1・ 2 学 年	240		○			○			○	
○			一般教科 (5) 接客・接遇	手荷物受託、手荷物の取扱い、手荷物の流し方など、接客、接遇の基本を学ぶ。	1・ 2 学 年	150		○			○		○		
○			試験		1・ 2 学 年	72		○			○		○		
○			基本技術実習 (1) 基本技術Ⅰ	構造修理、パッチ当てなどの航空機整備作業の基本技術を学ぶ。	1 学 年	60				○	○			○	
○			基本技術実習 (1) 基本技術Ⅱ	計測機械の取扱い、精度、注意事項を学ぶ。	2 学 年	50				○	○			○	
○			機体実習 (1) 機体取扱Ⅰ	小型機を用い、航空機の取扱い、地上移動などについて実習する。	2 学 年	40				○	○			○	
○			地上サービス実習	成田空港、羽田空港にて約一カ月企業研修を行う。	1 学 年	100				○	○	○			○
○			校外実習	校外にて他のサービス産業の見学を行い「おもてなし」の心を学ぶ。	2 学 年	150				○	○				
○			特殊車両 (1) 一般車両実習	座学で学んだ知識を実車にて安全運転が出来るよう実習を行う。	1・ 2 学 年	120				○	○	○			

授業科目等の概要

(工業専門課程 エアロサポート科)														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 時 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択					講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			特殊車両 (2) 特殊車両実習	特殊車両について、座学で学んだ知識を実車にて安全運転が出来るよう実習を行う。	1・2 学年	180			○	○	○			
○			特殊車両 (3) 支援作業実習	搭載、誘導、客室、機用品、機体、旅客の各支援作業を実習にて修得。	1・2 学年	200			○	○	○			○
○			コンピューター (1) コンピューター基礎	ワード、エクセル等、パソコン操作の基本を学ぶ。	1 学年	90			○	○				
○			コンピューター (2) コンピューター応用	ワード、エクセル等、パソコン操作の基本を実際に操作し修得する。	2 学年	100			○	○	○			
○			接客・接遇 (1) 接遇基礎	「社会人基礎力講座」テキストを基に身だしなみ、マナー、挨拶の仕方を学ぶ。	1 学年	120			○	○	○			
○			接客・接遇 (2) 接客・接遇実習	同上	2 学年	90			○	○	○			
合計						28科目	単位時間(2,832単位)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
学年毎に授業日数で70%以上の出席率。各教科の試験で60点以上(100点満点) 特殊車両実習実技試験・60点合格	1学年の学期区分	3期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。